# マレーシア最高峰 Mt.キナバルに挑戦

(報告) K

◎期日:2025年5月19日~23日

◎メンバー: IK(個人)



キナバル山(4095M)を背景に記念撮影

日程	5/19	成田発―クアラルンプール着・発―コタキナバル―ホテル泊
	5/20	コタキナバル発一登山口着・発一キナバル山登頂 1 日目一ラバンラタ小
		屋 3300M 着•泊
	5/21	ラバンラタ小屋発―キナバル山登頂 2 日目雨のため中止―コタキナバル
		着一ホテル泊
	5/22	ホテル―マムティック島―コタキナバル発―クアラルンプール着・発
	5/23	成田着

2 年前予約していたキナバル山登山が治療のためキャンセルになった。再チャレンジで行くことにした。 久しぶりに 4000M を超えるのが楽しみであるし、日本から比較的近く飛行機が楽なので決断した。いずれ の山でも初めての山は緊張と期待である。しかも海外は又格別である。特に今回のようにマレーシアは初め てなので興味深い。

## ☆第 1 日目 5/19 成田発 - クアラルンプール - コタキナバル - ホテル泊





翌朝のコタキナバルのホテル

今回の集合も成田 7 時 20 分ということで早いので前泊することにした。前泊すればゆっくり間に合う。起床 4 時 30 分 体操 シャワー 薬 読書 6 時パンとコーヒー送迎バスで空港へ6 時 30 分そのまま観光会社受付へ 既知の添乗員と再会 添乗員より 頂上寒いので注意 きつい山行なので心してと話がある トイレ 読書 7 時再度受付へ 7 時 20 分集合 11 人(男 3 人) 荷物出し(オートでチケット 荷札出し) 9 時クアラルンプール行き(マレーシア航空)改札開始 10 時 20 分出発 12 時昼食 12 時 30 分「ネパール人暮らしと政治」読了 15 時おにぎり チョコ 16 時 50 分クアラルンプール着 空港待機 20 時 50 分改札 21 時 10 分発 0 時コタキナバル着 ホテル 1 時着 五つ星ホテル 明日の準備(登山用の荷物をダッフルバックとザックに分ける。残りはスーツケースへ。)をして 3 時就寝

日本から 10 時間要す。時差 一1 時間

# ☆ 5/20 コタキナバル発 - 登山口着・発 - キナバル山登頂 1 日目 - ラバンラタ小屋3300M 着・泊



登山口事務所でウエーバーへの署名



大会参加者の記録



整備された登山道



休憩地 左側トイレ付き



滝も



野鳥も多い



ウツボカズラの群生



3300M の小屋

5:10 起床。昨夜は少し寒かった。予想が外れた。このホテルは五つ星ホテルなのだが、夜遅く着いた ので残念。7:00 ホテル発専用バスでキナバル登山口へ。ウエーバー免責届(海外では自然環境下での行 動に対して 自己責任を重視する考え方)をした後 ミニバスで第2登山口へ。歩き始める。サングラスが 必要なぐらい陽がさして風は気持ちよい。途中で曇り徐々に雨が降り出す。天気は今一だ。雨具を用意す る。ウツボカズラの群生を見て驚く。その後 急に疲れが出て遅くなる。そのうち足がつり始める。薬を飲 み備える。静まるが 又繰り返す。注視しながら進む。17 時 3300m ラバンラタ小屋へ到着。特に間 際の急登はキツかった。登山途中嘔吐している者数名おり 高山登山の厳しさを物語る。 その後打ち合わせ。ベランダへ雲上の世界展望 雨上がっている。明日はどうか。T シャツ 2 枚購入。20 時就寝。暖かい部屋である。

#### ☆5/21 ラバンラタ小屋発 - トレッキング2日目雨のため中止 - コタキナバル着ホテル泊







雨のため滝も出現

1 時起床。雨。2 時軽食 2 時 30 分出発予定。だが雨がどしゃぶりのためゲートオープン待ち。国立公園なので管理者の判断がいるようだ。3 時まで待つ。判断が下り本日はゲートは開かず登山は中止に決定。残念。7 時からの朝食まで睡眠。7 時朝食後 下山。

## ☆5/22~23 マムティック島 - コタキナバル発 - クアランプール着発 - 成田着



舟で島へ



島の海岸

4 時起床。荷物整理。体操 ひげそり 6 時 30 分朝食。8 時水着に着替えロビーへ 8 時 45 分集合 9 時島到着 スノーケリング 楽しい 魚が豊富 目の前を横切る 初体験 11 時 50 分 昼食 エビカニうまい すいか甘い 12 時 50 分島発 13 時 10 分

ホテル着 荷物整理 15 時ロビー集合 15 時発バスで土産・スーパーへ チョコレート、コーヒー、 紅茶など購入 16 時 30 分発 17 時空港 手荷物検査 出国手続き 17 時 30 分残金精算 18 時 05 分改札開始 成田へ

天候のために登山は中止であったが、マレーシアの国は初めてで楽しかった。再び訪れることはないであ ろうが 多くの出逢いを大切に次の山行に進めていきたい。